

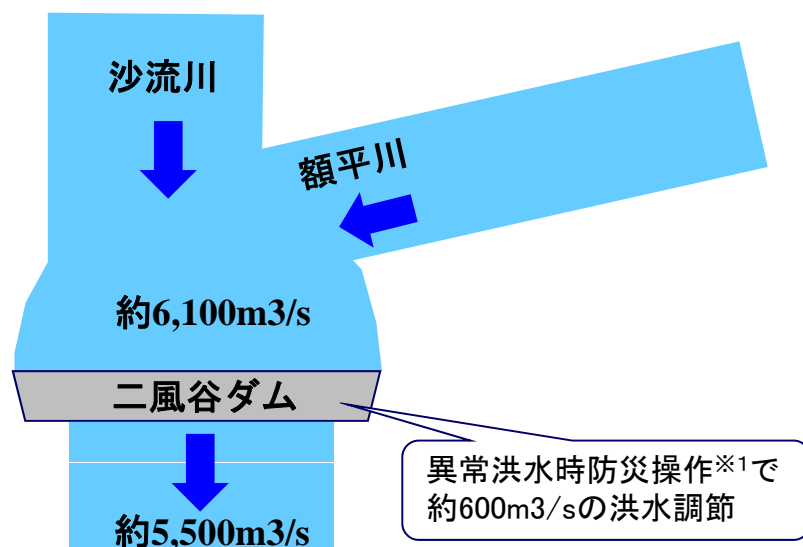
平成24年2月27日

北海道開発局

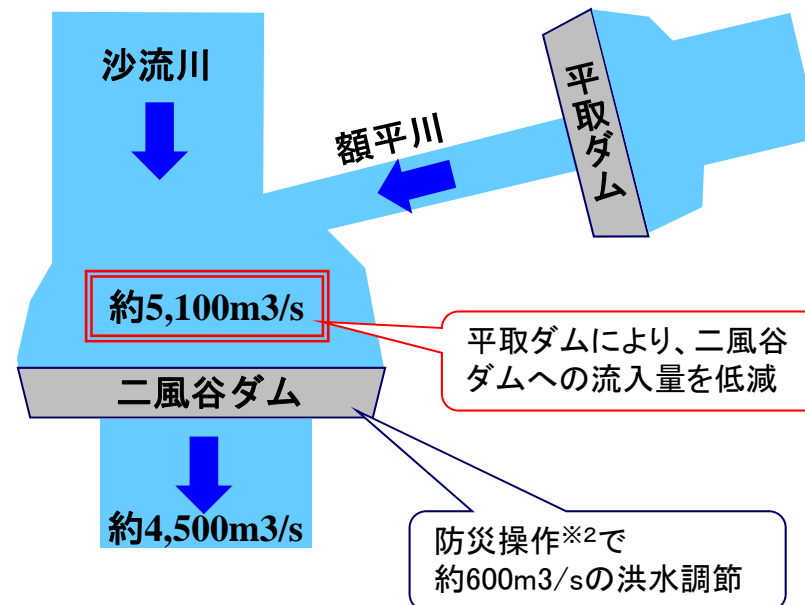
**二風谷ダム及び平取ダムによる  
洪水調節について  
(補足資料)**

- 平成15年8月の洪水では、当時の計画規模を超えた洪水に対して、二風谷ダム単独で異常洪水時防災操作<sup>※1</sup>を行った結果、最大流入量約6,100m<sup>3</sup>/sに対して最大放流量を約5,500m<sup>3</sup>/sとし、約600m<sup>3</sup>/sの洪水調節をしています。
- 沙流川水系河川整備計画では、平成15年8月洪水と同程度の洪水流量に対して、上流の平取ダムで二風谷ダムの流入量を減らし、二風谷ダムで防災操作<sup>※2</sup>を行うことにより、最大流入量約5,100m<sup>3</sup>/sに対して最大放流量約4,500m<sup>3</sup>/sとし、約600m<sup>3</sup>/sを洪水調節することとしています。

## ●平成15年8月洪水（実績）



## ●平成15年8月洪水と同程度の洪水流量に対する平取ダムと二風谷ダムによる洪水調節

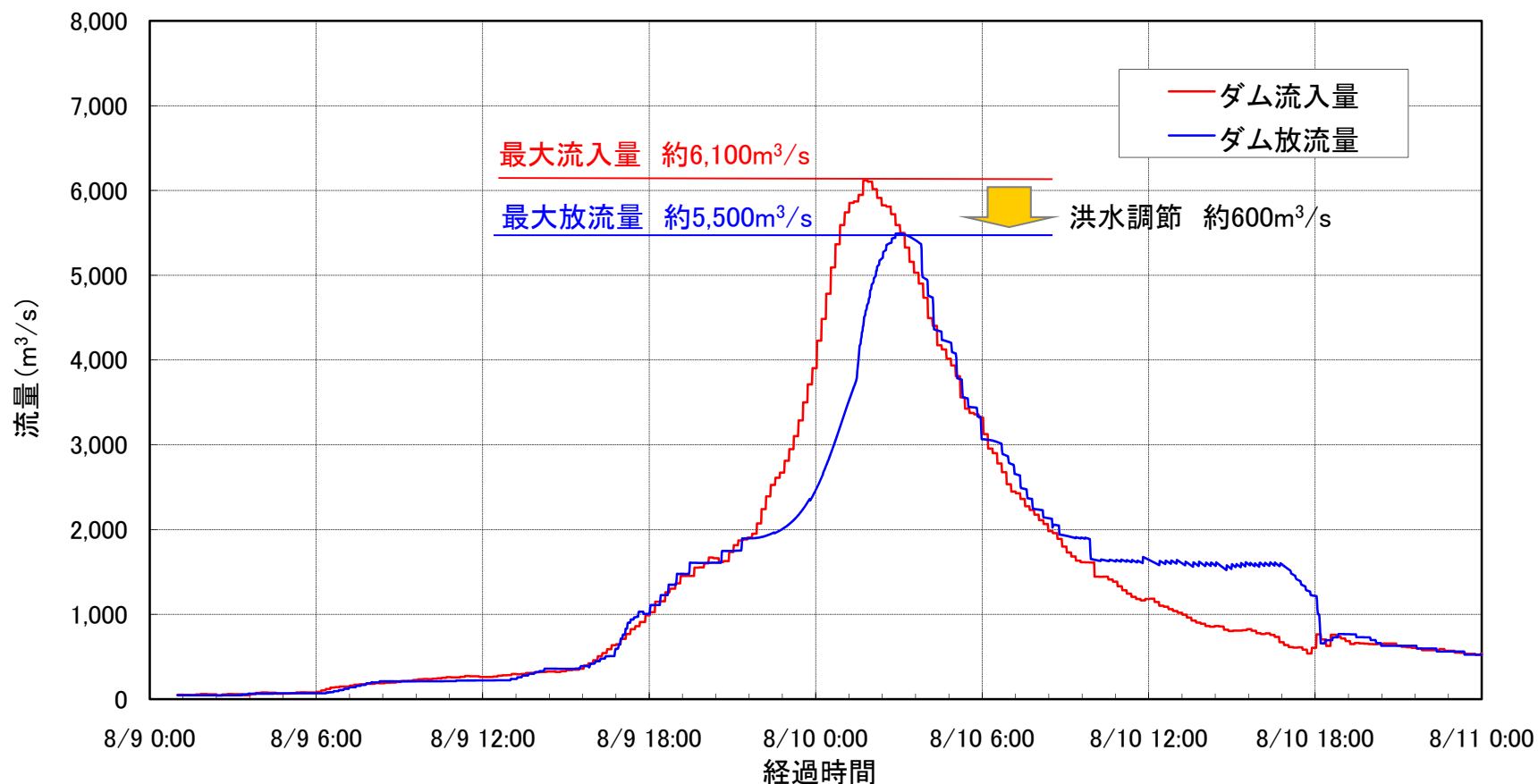


※1 異常洪水時防災操作とは、大きな出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じたため、流入量と同じ放流量に移行するため放流量を増加するダム操作。

※2 防災操作とは、出水をダムに貯め込んで川の流量を低減するダム操作。

平成15年8月の洪水では、当時の計画規模を超えた洪水に対して、二風谷ダム単独で異常洪水時防災操作※を行った結果、最大流入量約6,100m<sup>3</sup>/sに対して最大放流量を約5,500m<sup>3</sup>/sとし、約600m<sup>3</sup>/sの洪水調節をしています。

※異常洪水時防災操作とは、大きな出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じたため、流入量と同じ放流量に移行するため放流量を増加するダム操作。



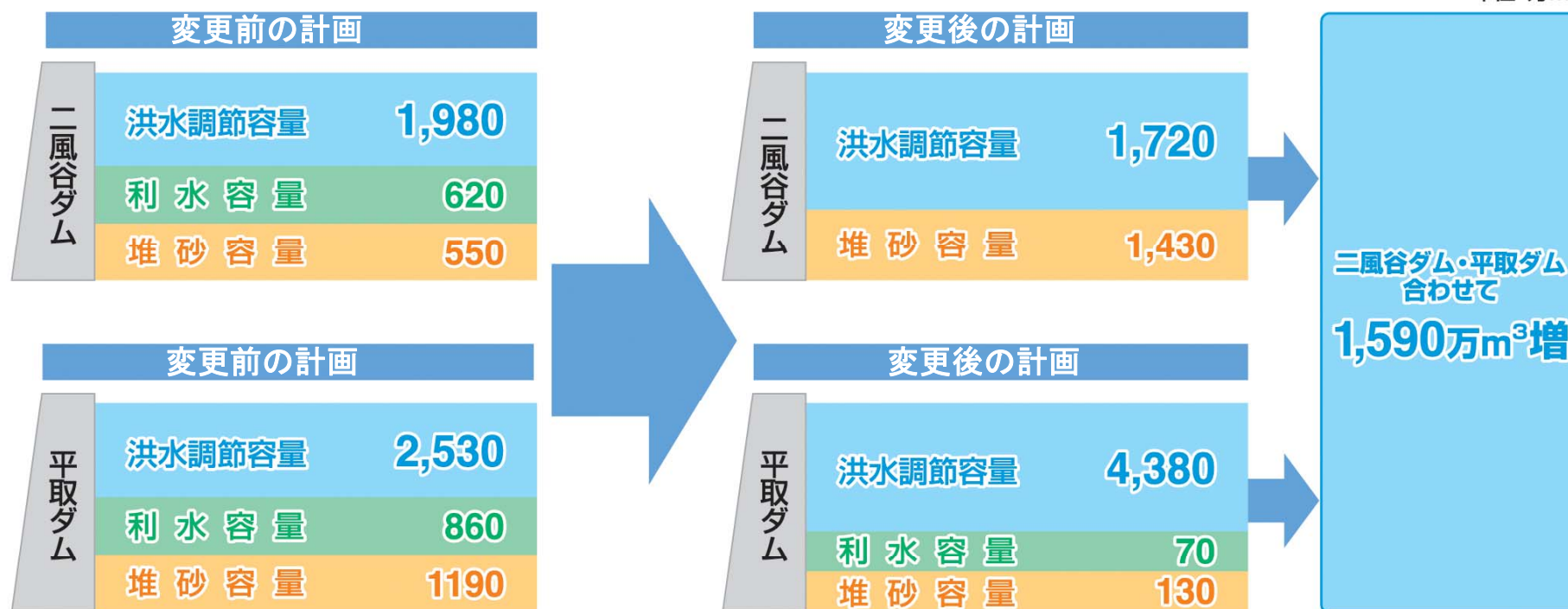
## 平成15年8月洪水を踏まえた洪水調節容量の変更

平成15年8月洪水を踏まえ、平成19年に「二風谷ダム及び平取ダムの建設に関する基本計画」を見直し、

- ・ 二風谷ダムの洪水調節容量：1,980万m<sup>3</sup> → 1,720万m<sup>3</sup>
- ・ 平取ダムの洪水調節容量：2,530万m<sup>3</sup> → 4,380万m<sup>3</sup>

とし、2ダム合計の洪水調節容量を4,510万m<sup>3</sup>→6,100万m<sup>3</sup>（1,590万m<sup>3</sup>増）に変更しています。

単位：万m<sup>3</sup>



沙流川水系河川整備計画では、平成15年8月洪水と同程度の洪水流量に対して、上流の平取ダムで二風谷ダムの流入量を減らし、二風谷ダムにおいて防災操作※を行うことにより、最大流入量約5,100m<sup>3</sup>/sに対して最大放流量約4,500m<sup>3</sup>/sとし、約600m<sup>3</sup>/sを洪水調節することとしています。

※防災操作とは、出水をダムに貯め込んで川の流量を低減するダム操作。

